

鳥のついで

Vol,10 2014年 春号



鳥海イヌワシみらい館
マスコットキャラクター
「ワッシーくん」



バードウォッチングへの誘い「ワシ・タカの背中」
イヌワシってどんな鳥？「ディスプレイフライト」
庄内の野鳥情報コーナー mini
庄内自然見聞録「アカマダラハナムグリ」後編

写真：「ノスリ」フンをしているところですが足元をよく見ると・・・。
長船裕紀 撮影

バードウォッチングへの誘い⑩

おれの背後に立つな！～ワシ・タカの背中～

敵に背後を取られることは一生の不覚。気高い猛禽類もきっとそんな世界で生きているに違いありません。バードウォッチングをしていると、ワシタカ達の背中だけを見る機会があると思います。今回はそんな彼らの背中を紹介します！（絵：本間憲一 監修：アクティंगレンジャー長船裕紀）



後姿をよく見かける「ノスリ」でも油断しているんじゃないですよ。（撮影 長船裕紀）



← イヌワシ

全体的に褐色のイヌワシですが、後姿には特徴があります。なんといっても後頭部の羽毛が金色であること。これが英名ゴールデンイーグルの所以です。若い鳥の尾羽には白い模様があります。



← クマタカ

クマタカは後頭部の羽毛が角のように立ち上ることから角のあるタカ、「角鷹（クマタカ）」と名前が付けられました。

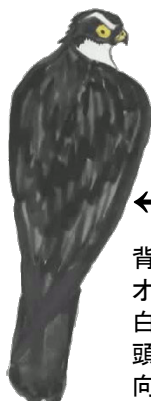
ハヤブサ →

ハヤブサ成鳥の背面は全体的に濃い紺色ですが、尾羽と胴体の境は少し薄い青灰色です。頬に垂れ下がるように現れる「ハヤブサひげ」が特徴です。



トビ →

もっとも身近なワシタカのなかまトビですが、色だけで見れば、背面は茶褐色一色で、なかなか判断が難しいかもしれませんが、飛行時同様に「三味線のバチ型」と呼ばれる尾羽の形状は、止まっているときも見分けのポイントになります。



← オオタカ

背面は全体的に濃い青灰色です。オオタカの特徴はやはり目の上にある白く太い眉毛模様。このラインが後頭部まで伸びているので、真後ろを向いていても、眉毛模様の端を見ることができるかもしれません。



← チョウゲンボウ

チョウゲンボウは小型のハヤブサのなかまです。農耕地などで小鳥や哺乳類、昆虫などを食べています。成鳥の♂と♀の違いがはっきりしていて、♀は全体的に茶褐色なのですが、♂は頭部と尾羽が灰色をしています。ハヤブサらしく頬にハヤブサひげがあります。



イヌワシってどんなワシ？⑨「ディスプレイフライト」

ここ猛禽類保護センターには「鳥海イヌワシみらい館」という愛称がついていますが、イヌワシって何？と思う人や図鑑でしか見たことがない人もいるかと思います。そこでシリーズ9回目は「イヌワシの飛び方」について紹介します。

鳥類が飛ぶと言っても様々な飛び方があるって知っていますか？羽ばたきながら一定の場所にとどまる「ホバリング」、羽ばたきをしないで一定の場所にとどまる「ハンギング」、羽ばたかずに飛行する「滑翔」、翼を広げて上昇気流をとらえる「帆翔」など、行動を説明するときによく用いられます。これらはバードウォッチングなどでもよく聞かれる用語ですので覚えていても損はないと思います。

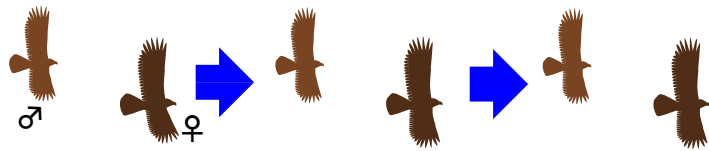
それらの行動をイヌワシも行いますが、それは普段の生活をするための行動の一部であって、主に移動や餌を探したり狩りをするときに行われます。しかし、イヌワシはこれら以外にも深い意味のある飛び方をしているのです。それが「ディスプレイフライト」と呼ばれる行動です。これは単に飛行という意味だけではなく、飛び方でその意思を相手に伝えるための、人間でいう「態度」にあたる飛び方です。

ディスプレイフライトは外敵が侵入してきたときや、愛を伝えるために使われています。たとえば、愛を表現するためには「並行飛行」といって求愛の相手との距離を一定に保ちながら飛び続ける方法や、「突っかかり飛行（擬攻撃飛行とも呼ばれます。外敵に対しても行われます。）」という求愛の相手に襲いかかるかのごとく、わざと体を接近させていく方法などがあります。また、外敵に対する警告の意味を持つ行動では、急上昇と急降下を繰り返す「波状飛行」のほか、「8の字飛行」などの誇示行動をすることがわかっています。（これらは愛を表現するときにも使われるようです）言葉を持たないイヌワシが鳴き声以外で自分の意思を表現する手段なのですね。イヌワシの恋愛シーズンは晩秋からはじまりますが、ディスプレイフライトの種類を理解して、イヌワシが公開猛アタックする姿を見たいものです。猛禽類だけにお後がよろしいようで。

参考文献：「図鑑日本のワシカ類」（文一総合出版）

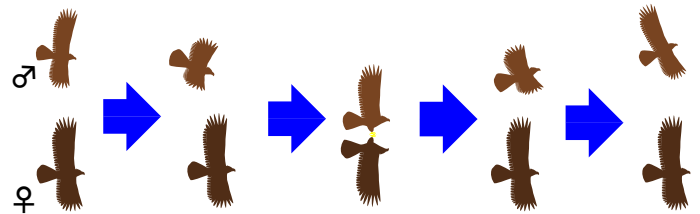
☆並行飛行

ぴったりと息の合った飛行。どこまでもくっついて飛びます。



☆突っかかり飛行

擬攻撃飛行とも呼ばれます。



庄内の野鳥情報コーナー mini



2014/1/18「オオワシ」酒田市
今年も来てます。撮影：長船裕紀



2014/2/19「オジロワシ」酒田市
お母さん！ついに撮れたよ！撮影：本間憲一



2014/4/6「カンムリカイツブリ」
酒田港 夏羽になってる！長船裕紀



「オオタカ」鶴岡市
歩道で偶然遭遇したそうです。あわてて携帯でとったということで、臨場感あふれる画像ですね。提供：鶴岡市 佐藤様



2014/3/15「ケリ」酒田市内
ハトでもハイイロチュウヒでもない！
チドリ科タゲリ属 ケリ！
撮影：長船裕紀



☆番外編「ツキノワグマ」岩手県盛岡市
こんなに近い距離で大丈夫なのでしょう
か？かわいいんですけどもね・・・。
提供：岩手県盛岡市 村井様

庄内自然見聞録

庄内平野防砂林の猛禽類の巣から採集したアカマダラハナムグリの幼虫（後篇）
アクティंगレンジャー 長船裕紀



アカマダラハナムグリの成虫は樹液に集まることが知られ、幼虫は堆肥や藁葺屋根等の腐植土で育つ（伊賀1955）といわれていたようです。それが最近になって、特に幼虫が大型鳥類の巣で発見され、巣の下層部に形成された腐植土や、鳥の雛に与えられる餌の肉などの食べ残しを食べているといわれています（越山ら2007）。これまで猛禽類の巣で発見される頻度が高かったのですが、最近の報告ではハシボソガラス（永幡ら2013）やカワウ（山本2010）、コウノトリ（那須ら2010）の巣でも確認されています。猛禽類ではハチクマ（槇原ら2004）、サシバ（山田ら2007）、アカハラダカ（Choi et al 2008）、ミサゴ（野中ら2010）、オオタカ（越山2012）、営巣木根際の落ち葉層下）、クマタカ（越山ら2012）での報告がされています。



図1 庄内海岸の松林



図2 巣から採集した土菌

アカマダラハナムグリはそれまでの発見頻度の少なさから今でも希少種と見なされることが多く、さらに興味深い生態や神秘性から昆虫少年や虫屋といわれる人のみならず、鳥屋の興味をも集めていることが、近年になって多くのフィールドワーカーによる様々な知見が報告されるようになった理由の一つではないでしょうか。別の観点としては、鳥類研究が盛んになり調査手法が多様化し、研究を目的とした巣への接触頻度の変化も一つの理由と考えられます。一方で、発生場所とかつて言われていた堆肥や、藁葺由来の腐植土の存在が、人間活動における生活様式の変化から乏しくなったのも事実です。したがって、元来アカマダラハナムグリの幼虫は、鳥類研究が進む以前から鳥類の巣で生活していたかもしれませんし、堆肥や藁葺由来の腐植土から巣の腐植土へと環境の変化に適応し、生活の場を移動していったのかもしれません。これらのことから、アカマダラハナムグリは、幼虫期の生育場所として鳥類に依存しており、生育可能な寄主鳥類の減少は本種そのものの減少につながりかねないのです。

環境省の第4次レッドリスト（2012）ではコウノトリをはじめ、クマタカやサシバは絶滅危惧種に、ハチクマ、オオタカ、ミサゴなどについても準絶滅危惧種（生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種）となっています。アカマダラハナムグリ自体も、環境省では情報不足ですが、地方版レッドデータでも多くの自治体でリストアップされています。近年、兵庫県では数年ぶりに再発見されたため、改訂された兵庫県版レッドリスト（2012）ではそれまでの絶滅種からAランク（環境省レッドリスト絶滅危惧ⅠA類に相当）へと変更されました。コウノトリの巣で発

見が相次いでおり、コウノトリの野生復帰がもたらした生態系のつながりといえます。昨今、アカマダラハナムグリは鳥類との共生が認められるようになり、生息環境を反映する環境指標として注目され始めています。

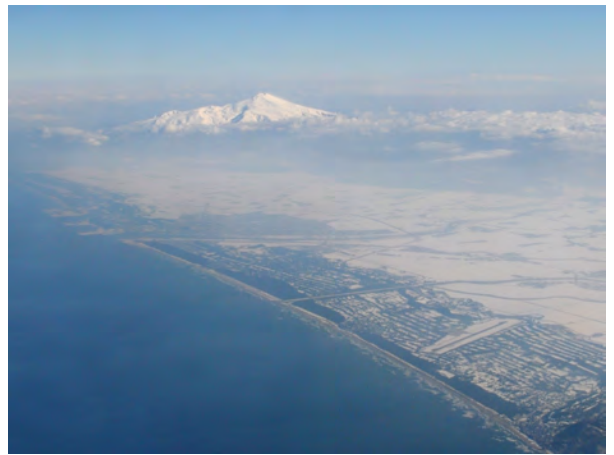


図3 庄内砂丘と鳥海山

今回アカマダラハナムグリを採集した場所は、酒田市北部の海に近い防砂林（松林）です（図1）。採集した落巢の過去の繁殖実績は、ノスリとトビが繁殖を繰り返し、2013年は繁殖シーズン初期にノスリが定着していましたが、5月上旬の強風により落巢したため繁殖が行われ

ませんでした。（長船・越山2014）採集地は海から1km、標高は20m程度で、標高700mの冷涼な地域（佐藤ら2006）や温暖な気候で樹液の多い里山環境（楨原ら2004）とは異なる環境であった点も含め、興味深い知見になると考えています。幼虫を採集して1か月後の8月22日、再び採集した落巢を掘り起こすと5つの土繭が出てきました（図2）。開口部があり成虫は既に脱出していましたが、飼育環境下で得た土繭と同様の形状をしており、この巣では少なくとも7個体のアカマダラハナムグリが生育していた可能性があります。

庄内の防砂林は南北33kmにもおよび、庄内平野の飛砂被害を防ぎ、人々の暮らしや産業をまもる重要な役割を担っています。そこには一定間隔にオオタカ、トビ、ノスリなどの猛禽類が営巣しており、それらを育む豊かな環境が存在しています。私たちは猛禽類やそのほかの生物にとっても、生息できる環境を残していくことが重要です。

今回の小さな幼虫の発見は、野生生物が生きていくために大切な生物間の共存や、生態系のつながりを教えてくれる大きな発見でした。それは自然環境保全を考える上で、皆さんにも知ってほしい私からのメッセージです。

※猛禽類の生活に影響を及ぼさないよう、十分な注意や配慮が必要である（本調査は繁殖活動終了後に行っています）。

引用文献

Choi, C-Y, Nam, H-Y, Lee, W-S&Park, G-R (2008) Prevalence of *Anthraxophora rusticola* (Coleoptera: Cetoniidae) in nests of the Chinese Goshawk (*Accipiter soloensis*). *Journal of Raptor Research*, 42:302-303.

伊賀正汎 (1955) あかまだらがね・原色日本昆虫図鑑甲虫編、増補改訂版（中根猛彦 監修）：103、保育社、大阪。

長船裕紀・越山洋三 (2014) 人工防砂林のノスリの巣でアカマダラハナムグリを採集・昆虫と自然、49(4)：12

越山洋三 (2012) オオタカ営巣木の根際で採集されたアカマダラハナムグリの幼虫・すずむし、(147)：74.

越山洋三・宮田亮・宮竹貴久 (2012) 岡山県美作市のオオタカ営巣地におけるアカマダラハナムグリの活動時期・倉敷市立自然史博物館研究報告 第27号（別冊）

越山洋三・渡邊啓文・平田智隆 (2012) 育雛中のクマタカの巣で採集されたアカマダラハナムグリの成虫・昆虫（ニューシリーズ）、15：172-174.

佐藤隆士・鈴木祥悟・牧原博 (2006) アカマダラハナムグリのハチクマ巢利用・昆虫（ニューシリーズ）、9：46-49.

永幡嘉之・越山洋三・梅津和夫・後藤三千代 (2013) ハシボソガラスの巣で発育したアカマダラハナムグリーDNA解析による土繭内の蛹殻および幼虫死体の種同定 - 昆虫（ニューシリーズ）、16(2)：104-112.

那須義次・村濱史郎・三橋陽子・大迫義人・上田恵介 (2010) コウノトリの巣から発見された鞘翅目と鱗翅目昆虫・昆虫（ニューシリーズ）、13：119-125.

野中俊文・野口将之・飯嶋一浩 (2010) ミサゴの巣で確認されたアカマダラハナムグリ・甲虫ニュース、(171)：12.

楨原寛・阿部学・新里達也・早川浩之・飯嶋一浩 (2004) ワシタカ類の巣で生活するアカマダラハナムグリ・甲虫ニュース、(148)：21-23

山田辰美・新井真・松岡陽市・関川文俊 (2007) ワシタカ類の巣で生活するアカマダラハナムグリの生息環境・富士常葉大学研究紀要7：213-219.

山本正志 (2010) 滋賀県伊崎半島のカワウコロニーの巣でアカマダラハナムグリ発生・昆虫と自然、45(12)：37-39

兵庫県版レッドリスト (2012) アカマダラコガネ 兵庫県.

イベント開催報告

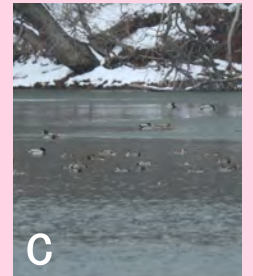
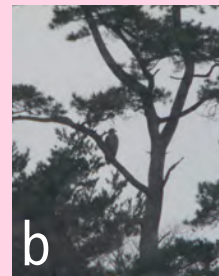
○「冬のワシ・タカ探し」開催しました！

2月23日（日）恒例となった冬のワシ・タカ観察会は、今年も鶴岡市のラムサル条約登録湿地「大山下池」にて開催しました。

講師は鳥獣保護区管理員の宮川道雄さんです。

今年の冬は、特に太平洋側や関東地方で大雪となりましたが、日本海側では例年に比べて雪の少ない冬となりました。通常、この時期には結氷しているはずの下池は広い範囲で水面があらわになっていました。周辺の田んぼにも積雪が少ないことから、ハクチョウなども池にとどまらず、餌をついばみに飛び立っていったようで、少し閑散とした雰囲気でした。しかし、ちょっと珍しい「トモエガモ」が池の奥にいたり、宮川さんから遊歩道を案内していただいた際に、観察会場からは見えないところで「オオバン」にも会うことができたりと、これまでは会えなかった鳥にも会うことができました。肝心のワシ・タカ類はオオタカが木に長いこと止まってくれたおかげでじっくりとその姿を観察できました。市街地の鉄塔にはハヤブサやチョウゲンボウも止まってくれたり、また少し遠いところでしたが、オジロワシも出現し、今年もまた冬のワシタカが庄内に来ている姿を観察することができました。講師の宮川さん、参加してくださった皆さん、ありがとうございました。

写真：a. 閉会式でのまとめの様子 b. オジロワシ c. マガモとトモエガモ
撮影 猛禽類保護センター



○出張展示「イヌワシ恋物語」開催しました！

2月7日～9日の3日間、酒田市のお隣、三川町のショッピングセンターイオンモール三川特設会場にて、鳥海イヌワシみらい館の出張展示を行いました。

内容はバレンタインデーも近いこともあってイヌワシの恋愛にスポットを当てた展示です。タイトルも「イヌワシ恋物語」とし、バレンタインムードに合わせるようにしました。

色々なつがいの写真展示や、イヌワシの愛情表現などをパネルとハンズオン展示で紹介しました。

恋愛というテーマにちなんで、アトラクション的に「イヌワシ大明神」を設置し、だれでも引くことができる「おみくじ」を提供しました。16種類のワシタカのなかが書かれた札を箱から引いてもらって、ゲーム感覚でワシタカの種を知ってもらえるようにしました。

ワッシーくんも定期的に会場に登場し、記念撮影に応じました。イヌワシの視力体験も人気で大盛況となった出張展示となりました。展示に協力いただきましたイオンモール三川のみなさん、会場に足を運んでくれたみなさんありがとうございました。



展示会場の様子

○「酒田っこチャレンジ冒険団」に協力しました！

酒田市教育委員会が主催する酒田っこチャレンジ冒険団が3月8日に開催されました。歴史のあるイベントですが、何と今回が最終回ということで、15名の子供たちが参加してくれました。

午前中は庄内ネイチャーゲーム協会の皆さんからも協力していただき、鳥海イヌワシみらい館のそばにある雪原にてネイチャーゲームをして、鳥海山の自然の厳しさや、ここで暮らす生き物たちの生き抜く知恵とたくましさを知ってもらいました。

午後はハチの幼虫を好んで食べるハチクマというタカの生態クイズを交えて「蜜ろうそく作り」を体験し、後日行われる東日本大震災の追悼イベント「キャンドルナイト」で使ってもらえるようにしました。

来場してくれた皆さん、酒田市教育委員会のみなさん、庄内ネイチャーゲーム協会のみなさんありがとうございました。



ハチの幼虫を好む「ハチクマ」の生態クイズ



鳥海イヌワシみらい館 平成26年度 観察会予定



	期日	イベントタイトル	内 容	観察できると予想されるワシ・タカ
※	5月3日(土) ～ 6日(火)	お鷹ぼっぼの絵付け	山形県の伝統玩具お鷹ぼっぼのルーツを探りながら、ワシ・タカ類の体の特徴を学びます。	
1	5月25日 (日)	観察会「春の渡りを見よう！」	春にやってくるワシタカのなかまを観察しながら、酒田市の自然にふれます	ハチクマ・サシバ・ノスリ・ハヤブサ・ミサゴ・ハイタカ・
2	6月15日 (日)	観察会「ワシ・タカ入門」	一般種から、希少種まで観察します。ワシタカ類の観察の方法や魅力をお伝えします。	トビ・ノスリ オオタカ・ミサゴ チョウゲンボウ
3	7月20日 (日)	ワシ・タカスクール	ネイチャーゲームを楽しみながらワシタカ類を学びます。	トビ・ノスリ・ハチクマ
※	7月21日 (月) ～ 8月17日 (日)	夏休み体験プログラム	登山道散策・お鷹ぼっぼの絵付け・エコバッグ作り・蜜ろうそく作り	
4	9月21日 (日)	観察会「秋の渡りを見よう！」	秋に去っていくワシ・タカのなかまを観察しながら、鳥海山の自然にふれます	ハチクマ・サシバ・ノスリ・ハヤブサ・ハイタカ・ツミ
5	10月上旬	観察会「2日間のイヌワシ観察会」	普段、間近に観察することが難しいイヌワシを動物園にて、担当飼育員からの貴重なお話を交えて観察します。翌日は鳥海山南麓でのイヌワシ観察会を開催します。	イヌワシ・ノスリ ハイタカ・ツミ
6	2015年2月	観察会「冬のワシ・タカ探し」	冬にやってくるワシタカのなかまを観察します。カモなどの水鳥も観察します。	オオワシ・オジロワシ・オオタカ・ノスリ・ハヤブサ・ハイタカ

日程、及び内容は変更になる場合があります。詳細は開催日の1か月前に、鳥海イヌワシみらい館のホームページや酒田市の広報にてお知らせします。



鳥海イヌワシみらい館がお送りする！

ラジオ番組「ヤッホー！ワッシーくん♪」放送開始！



酒田市のコミュニティFM「ハーバー-RADIO」さんで、4月から鳥海イヌワシみらい館のスタッフがパーソナリティーを務めるラジオ番組が放送されます。バードウォッチングや、自然観察についての旬な情報の他、鳥海イヌワシみらい館のイベント情報や開催の様子などを伝えます。

放送の2週間前に決まるという無謀さでしたが、無事収録できました（無事なのか？）。スタッフの軽妙なトークをお楽しみください。（全員緊張でがちがちでした・・・。お聞き苦しい点もあるかと思いますがご容赦下さい・・・。）

放送時間：毎週水曜日①午前9時～10時 ②午後1時～2時
周波数：76.1MHz（山形県酒田市での放送です）



